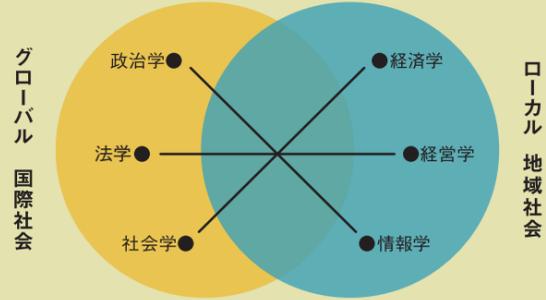


政治経済学科の学び

世界と地域の視点を併せ持ち、現代社会を理解する
政治経済学科では、「政治学」「経済学」「法学」「社会学」「経営学」「情報学」という、社会科学を構成する重要な六つの分野を学ぶことができます。現代社会を考える多様な視点が身につく、入学後に自分の興味・関心を見定めることもできます。国際社会の平和を追求するグローバルな視点と、地域社会におけるまちづくりの実践に繋がるローカルな視点を獲得できるよう配慮しています。



卒業生紹介

file.no 平間 健一

01

2007年政治経済学科卒業
タイムズサポート株式会社
ファイナンシャルプランナー
として活躍中!



聖学院で学んだこと

在学中は好奇心が刺激され続け、124単位で卒業できるところを、他学部履修を含めて183単位を取得しました。仕事で直面する課題を俯瞰的に見たり、相手の立場で考えたりできるのは、さまざまな科目を学んだことで多角的な物事の見方を養えたからだと思います。大学生活の集大成として取り組んだ卒業論文が最優秀賞を受賞できたことはよい思い出であり、私の誇りでもあります。

file.no 守永 彩乃

02

2016年コミュニティ政策学科
(現政治経済学科)卒業
Meiji Seika ファルマ株式会社
製薬会社のMRとして活躍中!



聖学院で学んだこと

政治経済学部に進んだのは、卒業後どのような職業に就いても発揮できる、社会人の基礎力が身につくと考えたため。実際、在学中に力を注いで学んだコンピューターや情報学に関する知識は仕事を問わず求められますし、アカペラ部の活動を通して学んだチームワークは、今の職場でも大切にしています。在学中はもちろん、社会人になった現在も、ゼミの先生は頼れる相談相手です。

《2022年度》オープンキャンパスに参加しよう!

《日程》
要予約

7/23
[土]

8/20
[土]

8/22
[月]



最新のタイムスケジュールやプログラムは、大学ウェブサイトで確認をお願いします。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、中止や変更(オンライン開催)となる場合がございます。

LINE チャット
進学相談



質問受付中!!

受験生の方対象のLINEチャット(トーク)による個別相談をオープンしています。聖学院大学LINEを友だち登録していただき、トーク画面からいつでも質問できます。気になることや知りたいことなどを、お気軽にご相談ください。

Love God and Serve His People
聖学院大学

一人を愛し、一人を育む。
—政治経済学部 政治経済学科—

お問い合わせ

048-725-6191

アドミッションセンター 月~土 9:00-17:00

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL 048-781-0925

FAX 048-725-6891

MAIL pr@seigakuin-univ.ac.jp

ACCESS

JR高崎線「宮原駅」西口、またはJR埼京線「西大宮駅」北口からスクールバスがあります。「宮原駅」西口、「日進駅」北口から徒歩約15分。

https://www.seigakuin.jp/



聖学院大学

政治経済学部
公開講演会
2022



戦争、難民、そして、
和解／平和

ウクライナ侵攻から考える戦争と難民 —和解／平和への道筋を求めて—

聖学院大学政治経済学部では、2018年度よりさまざまな切り口から、時代の課題について問題提起をしながら、本学学生、市民の皆さんと共に学び、共に考える公開講演会を開催してまいりました。2022年度は、統一テーマを「戦争、難民、そして和解／平和」といたしました。2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、わたしたちに、戦争と、戦争がもたらす帰結のひとつである難民という現実に対峙することを迫りました。

ロシアのウクライナ侵攻は「国際法違反」だと呼ばれますが、わたしたちは、その意味するところを正確に理解しているでしょうか？ウクライナに限らず、世界各地でさまざまな理由により、難民とならざるを得ない人びとがいます。しかし、日本は難民に「冷たい」国だといわれています。それはなぜでしょうか？そうしたなかにおいても、難民保護の新しいあり方が日本で生まれているといえます。

和解、平和に向けての道筋を見出すことは簡単ではありません。しかし、わたしたち一人ひとりがこの課題についてよく知り、それぞれに考えを持つことが、遠回りでもその道筋を探ることにつながります。多くの皆さまがこの営みに参加して下さることを願っております。

聖学院大学
政治経済学部 教授

八木 規子



2022
10.19 WED
10:40-12:10

「難民鎖国」日本が直面する世界

ロシアのウクライナ侵攻を受け、日本政府はウクライナからの避難民の積極的な受け入れ姿勢をアピールしてきました。しかし、これまでの日本の難民認定数は年間数十人程度に過ぎません。数万人単位で受け入れる米国などと比較してあまりに少なく、「難民鎖国」と批判する専門家もいます。野党側は日本の難民認定は厳しすぎるとして、独立性の高い第三者委員会による認定などを定めた「国際標準」に合わせた新法案を提案してきました。

世界の難民や国内避難民は2022年5月までに1億人を超えました。過去10年間で倍増しており、世界人口の1%をはるかに超える「達成してはならなかった記録」(UNHCR)です。ウクライナ危機では600万人超が国外脱出。シリア、ミャンマー、アフガニスタン、アフリカ諸国などの出身者らも紛争や迫害のため母国を逃れ、日本を含む各国で保護を求めています。気候変動や紛争による難民の増加が予想される中、日本はどこへ向かうべきでしょうか。一人一人が真摯に考えることが求められています。

講師

和田浩明氏



毎日新聞 記者

1991年4月毎日新聞社入社。英文毎日編集部、サイバー編集部、外信部、大阪社会部を経て2003年10月から08年3月までワシントン特派員。無差別発砲事件、インド洋大津波、イラク駐留米軍や大統領選挙を取材。09年4月からはカイロに勤務し、11年1月に始まった中東の民主化要求運動「アラブの春」をチュニジア、エジプト、リビア、シリア、イエメンで目撃した。東京での中東、米州担当デスク、2度目のワシントン特派員などを経て2019年5月からデジタル報道センター。日本社会と外国人住民やLGBTなどの今後に関心がある。

会場
聖学院大学チャペル

コーディネータ

春木育美

政治経済学科長・教授



2022
11.30 WED
10:40-12:10

国連、国際法から見た 武力紛争、避難民と和平

本年2月24日にロシアがウクライナに侵攻して以降、欧米諸国をはじめ様々な首脳がロシアのウクライナ侵攻は「国際法違反」であるとの声明を出しています。しかし、一口に「国際法」といっても人権、環境、刑事、貿易、紛争処理、安全保障等々、様々なルールがあります。具体的にロシアのいかなる行為がいかなる国際法に違反しているのでしょうか。また、ウクライナの行為は国際法に照らしてどう評価できるのでしょうか。

さらに、和平の在り方についても考えなければなりません。国際法上、ロシアの侵攻の結果生じた損害や避難民といった問題は、いかなる場で、どのように解決されるのでしょうか。

この講演会では、国際法の観点から、「自衛権」「武力紛争」「(避)難民」といった基本的な規則に照らして、武力紛争時におけるロシア及びウクライナの行為の法的評価をするとともに、和平に向けて紛争当事国や第三国、国連が果たす(べき)役割について検討します。

講師

広見正行氏

神戸市外国語大学准教授



上智大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。博士(法学、上智大学)。神戸市外国語大学国際関係学科・准教授。専門は国際法(安全保障法、武力紛争法)。国際的武力紛争における休戦協定や平和条約の研究をしてきた。

会場

聖学院大学チャペル

コーディネータ

鈴木詩衣菜

政治経済学部・准教授



2023
01.18 WED
10:40-12:10

難民を取り巻く 世界の潮流と日本の課題 ～シリア、アフガニスタン、ウクライナの事例から

難民支援については、ヨーロッパを中心に、2015年のシリア危機から「難民危機」とも呼ばれる事態が起き、もはやそれまでの体制や方法では対応することができないという危機意識が生まれていました。そして、2018年には、国連総会においてGlobal Compact on Refugees(GCR)が採択され、従来の「伝統的な」難民支援に加え、新たなアクターによる新しいアプローチが推奨されました。大学をはじめとした教育機関、難民の雇用や先進的な技術を使った企業などが、新たに難民支援の表舞台に立つことになったのです。日本においても、それに呼応する動きとして、シリア難民を留学生として受け入れる枠組みを、政府のみならず民間でも始めることになりました。「難民に冷たい」と言われてきた日本において始まったこの動きを詳しく解説するとともに、ウクライナ(避)難民の受け入れの状況を中心に、今後の日本における難民保護のあり方を、参加される皆さまとともに考えたいと思います。

講師

石井宏明氏



一般財団法人パスウェイズ・ジャパン(PJ)理事
一橋大学国際・公共政策大学院 非常勤講師

名古屋市出身。慶應義塾大学商学部を卒業後、豊田自動織機製作所に入社。約6年の勤務を経て、米国モンレー国際大学院大学に留学、MA(修士号)を取得。帰国後、1995年にアムネスティ・インターナショナル日本に入職後、ピースウィンズ・ジャパン、難民支援協会(JAR)とNGO/NPO畑を歩み、現職のパスウェイズ・ジャパン(PJ)に至るまで一貫して、国内外の難民支援に携わる。東日本大震災被災者支援にも関わり、現地のNPO立ち上げ、運営支援などにも従事。現在も多くのNPO法人等の役員を務める他、一橋大学にて非常勤講師「市民社会論」を務める。

会場

聖学院大学チャペル

コーディネータ

春木育美

政治経済学科長・教授



講演の様子は、アーカイブ配信(期間限定)いたします。
視聴をご希望のかたは、大学ホームページでお知らせするご案内からお申し込みください。
お申し込み案内は、講演日の2週間前から掲示します。